



企業の不動産戦略は投資から事業参入へ

不動産市場動向セミナー 2015イン仙台

「企業の不動産戦略は、数年前まで資産から不動産を外すオフバランス、持たざる経営が主流だったが、今はオンバランス戦略に変化してきている」。5月26日に行われた不動産市場動向セミナー（主催アセットブレインズ仙台ネットワーク）で、㈱ナカリエステート常務取締役の佐々木正之氏（円内）はそう話した。

「新CRE戦略」と題した講演の中で氏は、企業が不動産を保有する理由について、「不動産価格・賃料・建築費の上昇

が予測されており、コスト面で保有したほうが有利になるケースも想定される」とし、仙台の事例として太白区あすと長町でイケアやイオンが自社利用のために土地を取得したことなどを上げた。また、企業が収益用不動産を取得するケースが増えていることについて、「人口減に伴い、自社の収益環境の先行きが不透明になっている。収益用不動産の取得は、そうした時代に備え安定収益を確保しようという動きであり、それが多種多様な業種の企業で起こっている」と解説し、新CRE戦略

は、単なる不動産投資にとどまらない「企業の不動産事業への参入」だと強調した。

